

7月の水稻の管理作業

平成 29 年 7 月

JA 新旭町 営農経済部

高島農業農村振興事務所農産普及課

【生育状況】

6月も晴れの日が多く、日照時間は平年より多いものの、気温は平年より低かったことから、生育は昨年同様程度もしくはやや遅い状況です。ただし、移植日や圃場条件によって生育の差がありますので、今後は生育に応じた管理が重要です。

- ① 県下の「コシヒカリ」の幼穂形成期は、平年並みと予想されます。
- ② 茎数過多となっている圃場では、白未熟粒の増加や倒伏が心配されます。

後期重点施肥(出穂 18 日前に窒素 1kg、11 日前に窒素 3kg 施用)を行います。

【今後の管理】

(1) 適正な水管理

《出穂前後各3週間の常時湛水》

- ① 出穂期前後は、水稻の一生の中で最も多くの水を必要とする時期。水が不足すると稲が十分に光合成できず、白未熟粒の発生や籾の充実不足が助長されてしまいます。
- ② また、湛水管理はカドミウムの吸収を抑制させることができます。したがって、出穂前後各3週間は常時湛水管理をしましょう。

※用水利用にあたって、掛け流しや深水管理等、必要以上の取水にならないよう、計画的な水管理を徹底していただくようお願いします。



(2) 病虫害防除・・・7月4日発表の「[病虫害発生予報第6号](#)」を参照

○葉もち（発生時期：やや遅い、発生量：平年並）

- ① 余剰苗は直ちに除去しましょう。
- ② いもち病に有効な薬剤を育苗箱施用または移植時に側条施用したほ場では、防除の必要性は低いと考えられます。
- ③ 多肥田や晩植田、「コシヒカリ」「キヒカリ」「秋の詩」「滋賀羽二重糯」では特に注意して下さい。
- ④ 圃場をよく見回り発生を確認したら薬剤を散布して下さい。

○紋枯病（発生時期：やや早い、発生量：平年並）

- ① 前年発生が多かった圃場では、再発の可能性が高く、特に注意して下さい。
- ② 生育の旺盛な圃場で、発生が多いので注意して下さい。

○斑点米カメムシ防除（発生時期：早い、発生量：やや多い）

この5か年で最も多くなる予報となっていますので、出穂 2～3 週間前と出穂期に、2 回連続で畦畔の草刈りの実施と薬剤散布による防除を実施して下さい。（スタークル等）

(3) 生育に応じた穂肥の施用

- ①高温条件下で白未熟粒を減らし品質を向上させるためには、生育に応じた穂肥の施用により粒数をつけすぎず、登熟期の活力低下を防ぐことが重要です。
- ②「コシヒカリ」、「秋の詩」は2回均等分施で4kg(2kg+2kg)を基本とします(表1)。
- ③茎数過多となっているほ場は、品質低下や倒伏が心配されます。コシヒカリは後期重点施肥(出穂18日前に窒素1kg、11日前に窒素3kg施用)を実施しましょう。幼穂形成期の葉色や株張りを確認し、生育に応じて穂肥の量、施用時期を変えましょう(表2)。

表1 穂肥施用基準 (窒素成分 kg/10a)

品種名	出穂25日前	出穂18日前	出穂11日前
コシヒカリ		2	2
秋の詩	2	2	

目安：秋あがり 15 kg/回

※ 緩効性肥料の場合は、1回目に総量を施用する。

表2 生育に応じた穂肥の施用 (葉色板の貸出しを希望される方はJAまで)

品種名	幼穂形成期頃の生育		生育に応じた穂肥施用(窒素成分)
	葉色	株張り	
コシヒカリ	濃い: 3.8以上	大	出穂18日前に1kg、11日前に3kg
	薄い: 3.8以下	小	出穂20日前に2kg、出穂13日前に2kg
秋の詩	濃い: 3.5以上	大	出穂18日前に2kg、出穂11日前に2kg
	薄い: 3.5以下	小	基準より2~3日早める

株張りの基準は、コシヒカリで20本/株、秋の詩で25本/株です。

品種別出穂期予測と穂肥施用時期の目安 (平年並の場合)

地域と田植日	品種	出穂期予測	1回目の穂肥施用時期	
			化成肥料の場合	100%有機質肥料の場合 (化成肥料より約7日早める)
平坦地早植 5月初旬頃	コシヒカリ	7月28日	7月10日	7月3日
	秋の詩	8月1日	7月15日	7月8日
平坦地遅植 5月15日頃	コシヒカリ	8月1日	7月15日	7月8日
	秋の詩	8月10日	7月20日	7月13日
平坦地遅植 5月末日頃	コシヒカリ	8月7日	7月21日	7月14日
	秋の詩	8月15日	7月22日	7月15日

※穂肥2回目施用時期は1回目の約一週間後が目安です。

※あくまで現時点の予想日です。今後の天候で大きく変わることも予想されます。

穂肥時期は、できる限り幼穂を確認してから施用しましょう!

★幼穂の長さ 1mm
⇒ 出穂25日前

★幼穂の長さ 1cm
⇒ 出穂18日前

